

## 第 43 回一志会例会 レポート 平成 29 年 11 月 29 日

一志会は、「公の精神」のもとに積極的に社会的責任を果たそうとの想いを共有する大企業経営幹部の「コミュニティ」ですが、11月29日に第43回例会を開催しました。



【講師 鈴木幸一氏】

今回は、(株)インターネットイニシアティブ(IIJ)の代表取締役会長&CEOの鈴木幸一氏をゲストにお迎えして、「ITと経営」と題した卓話をいただきました。

鈴木氏は、1946年生まれで、71年に早稲田大学卒業の後、日本能率協会ではコンサルティングに従事しましたが、インターネットの黎明期にいち早くインターネットの将来性を確信し、92年にIIJの前身となるインターネットイニシアティブ企画を設立、取締役役に就任、翌93年に日本企業としては初めてのインターネットの商用サービスを開始しました。94年に現在のIIJを設立して社長に就任(2013年会長)して以来、一貫してわが国でのインターネット分野の先駆者、そして重鎮として、企業向けデータ通信サービスや個人向け格安スマホ事業などで、次々と新しい事業を展開しています。クラシック音楽にも造詣が深く「東京・春・音楽祭」の実行委員長を務めるなど、スケールの大きな熱血経営者で、一柳が尊敬する経営者のお一人です。

鈴木氏は、インターネットの本質を、冷戦時代の通信手段である電話の脆弱性を超える手段としてアメリカ政府が巨額の研究予算を投じて開発した狙いを説明したうえで、21世紀にはインターネットを活用して金融・通信のプラットフォームを築き、世界の覇権を握ろうとしてきたこと、したがって、「インターネットとは自由につながる(通信機能)」が前提となっていることを指摘されました。

これに対して、日本では、インターネットをビジネスで活用することへの理解が深まらず、IIJが目指した商用サービスの開始も計画より3年遅れてしまったことを残念がるとともに、日本企業はモノづくりには長けているが、モノと通信機能を結びつける、という発想ができず、この世界では大きく出遅れてしまったことを指摘されました。

企業経営においては、現在ではインターネットの活用が必須であるが、インターネットの進化のスピードは速いので、グローバルに競争していくためには、既に世界の動きは、自前のシステムを保有する時代から、専門業者のシステムを活用する時代(資産から経費化)に変わっていることを、具体例を挙げながら説明されました。そのうえで、インターネット、ITの進化は業務プロセス自体の変化を迫ることになるが、日本では、労働力の流動性が乏しいことが大きな理由となって、このような世界の変化の潮流に乗り遅れてしまっているのではないかと懸念を示されました。



経営者は、今後、インターネット、ITへの理解を深めて、果敢な取り組みが必要であり、あわせて、労働政策もこのような変化を踏まえた内容(職業訓練など)を充実していく必要性を強調されました。

会場からは、質問が相次ぎましたが、鈴木氏は、豊富な経験・知見のもとに、率直なコメントをされて、喜ばれました。



電通 PR 太田氏

会員の交流時間帯では、会員スピーチとして、太田・電通パブリック・リレーションズ取締役常務執行役員から、「見えない価値を可視化する”企業魅力度調査”分析」と題し、同社が実際に展開しているサービスについて、お話いただきました。あわせて、同社が著した「戦略思考のリスクマネジメント」がプレゼントされました。

続いて会員からの近況報告として、杉山・資生堂ジャパン代表取締役社長、吉岡・アスクル取締役、山中・ラック常務執行役員、品川・レシップホールディングス執行役員、加藤・品川リフラクトリーズ取締役常務執行役員、野村・興和取締役常務執行役員、小沼・東京証券取引所取締役常務執行役員、佐藤・東京電力パワーグリッド常務取締役、柳生・プチファーマシスト代表取締役より、それぞれ報告をいただきました。

ゲストの鈴木氏を囲んでの交流が続き、とてもにぎやかな雰囲気の中で、予定の時刻を大幅に超えて、今年最後の例会を終えました。



資生堂ジャパン  
杉山氏



アスクル  
吉岡氏



ラック  
山中氏



レシップホールディングス  
品川氏



品川リフラクトリーズ  
加藤氏



興和  
野村氏



東京証券取引所  
小沼氏



東京電力パワーグリッド  
佐藤氏



プチファーマシスト  
柳生氏